

C帯サブ・ワーキング・グループにおける検討状況

【無線 LAN DFS に関するパルスパターンの検討】

「無線 LAN の DFS における周波数有効利用の技術的条件に関する調査検討」に基づいた対処等の検討

DFS に関する技術的条件について、気象レーダー関係者と無線 LAN 関係者において、以下の検討を経て、当該条件を取りまとめた。

気象庁より平成 30 年 6 月に提案した W53 帯 DFS パルスパターン修正案について、平成 30 年 10 月以降の無線 LAN 各社による検証試験の結果、一部チップベンダーの DFS のアルゴリズムでは対応できないことがわかった。

このため、当面、現行の気象レーダーに DFS が対応するよう暫定的なパルスパターン規格案を提案し、DFS に関する技術的条件が取りまとめられた。

ただし、無線 LAN 関係者から、一部の機器を短期間で確認したため、一部企業では 802.11ax 規格化までに引き続き確認を行っている状況である旨コメントが出された。その結果次第では無線 LAN の制度施行から 1 年後までに新 DFS パターンの見直しを行うことができるよう今後の課題の 1 つとされた。

また、数年後に、気象レーダーが今後使用する予定のパルスパターンにも DFS が対応できるよう、検討当初から求めてきたことについても検討課題として掲げられた。

【参考】平成 31 年 4 月 26 日 情報通信審議会情報通信技術分科会陸上無線通信委員会
報告概要（資料 1 4 1-1-1）「今後の検討課題」より抜粋

- 気象レーダーにおける更なる固体素子型の導入をはじめ、フェーズドアレイ気象レーダーの実用化等各種レーダーの高度化に伴い、またチップセットの対応や諸外国における DFS の技術基準を踏まえた無線 LAN システムの設計・開発状況により、必要に応じて DFS の条件等の見直しを図ることが適当。また、当該技術的条件の見直しに当たっては、あらかじめ今回の DFS の測定条件に影響を及ぼす事象が生じ得るか検証し、必要に応じて対応策を協議することが適当。